

トラン・ヴァン・トゥ教授早稲田大学教授外国人叙勲記念レセプション  
梅田邦夫大使挨拶文  
(2018年8月15日)

【呼びかけ】

トラン・ヴァン・トゥ早稲田大学教授、  
ズオン・チ・ツェト・ミン令夫人、  
御参列の皆様。

【本文】

本年5月、トラン・ヴァン・トゥ先生は東京で瑞宝小綬章を受章されるとともに、ご夫妻で天皇陛下に拝謁されました。そして、本日、ハノイの地において、ご家族並びに沢山のご友人とともに、先生の叙勲を祝福できることを幸運に思います。

本年は日越外交関係樹立45周年を迎えていますが、トラン・ヴァン・トゥ教授の初来日から50周年でもあります。この記念すべき年に、先生の功績が認められたことは、緊密な日越関係を象徴する出来事といえます。日本政府を代表し、改めて先生の日越関係への多大な貢献に心から感謝を申し上げます。なお、本日の記念レセプションは、45周年事業の一環として実施しております。

ここで、トラン・ヴァン・トゥ教授の功績をご紹介します。

第一の功績は、先生が日越経済協力促進に大きな貢献されたことです。先生は、日本の国費留学生として1968年に初めて訪日し、一橋大学で経済学博士号を取得し、その後、桜美林大学と早稲田大学で教鞭を取っておられます。50年間一貫して、日越経済関係強化を重要なテーマと位置づけ取り組んでこられました。

先生は、「第二次世界大戦後の日本の経済発展の経験がベトナムの発展に必ず役立つ」という信念の下、日本及びベトナムの経済研究を続けられました。

そして、ドイモイ政策の開始以降、先生の日本での経験が高く評価されるようになり、1993年には、ヴォー・ヴァン・キエット首相の経済・行政改革諮問委員会のメンバーに選出されました。日本の経験をベトナム指導者に説明できる唯一の存在であり、頻りに日本とベトナムを往来しながら、ベトナムがとるべき工業化戦略、経済政策、制度改革についてベトナムの指導者に提言し、ベトナムの経済基盤の構築とともに、日越間の信頼関係構築に大きな貢献をされました。

特に、石川プロジェクトと呼ばれる「日越共同研究」の枠組みの下で行われた、ベトナム市場経済化支援プロジェクトにおいては、日越両国の文化や考え方も深く理解している立場から双方に対して適切な助言され、プロジェクトの成功に大きく貢献されました。

先生は、日本においても、首相の諮問機関である経済審議会の専門委員として、アジアの視点及びグローバルな視点から、日本の対外経済政策について提言を行ってこられました。

た。

第二の功績は、先生は経済分野に留まらず、日越間の相互理解促進にも多大な貢献をされたことです。

先生は、日本の歴史・文化・経済発展に加え、明治時代の偉人の軌跡、渋沢栄一などの明治時代の財界人の資質、ホンダ創業者の本田総一郎やソニー創業者の井深大と盛田昭夫などの戦後を代表する財界人の経営哲学、日本の官僚機構制度、コメ百俵とその教育優先精神等をベトナムの新聞・雑誌で紹介されました。また、日本人の美徳や精神等についてもベトナム人社会に啓蒙活動を行い、ベトナム社会の対日理解を深めて頂きました。

同時に、日本において、ベトナム社会経済の最新状況を日本社会に紹介し、日本人のベトナムへの関心を高めていただいています。

第三の功績は、人材育成に尽力されてきたことです。先生は、国際的人材の育成を目指す「ベトナム太平洋経済センター設立」の発起人として、日本の官界や財界、ベトナム政府との調整を一手に引き受け、1993年の同センターの設立に大きな貢献をされました。先生は、同センター設立以降、日本の研究機関との協力関係強化を積極的に進め、同センターにおいて多数の知日派ベトナム人研究者を育成されました。

また、先生は、2004年、早稲田大学総合研究機構内に、「ベトナム総合研究所」を設立し、所長として、東アジア経済統合、メコン地域開発等に関する多くの研究プロジェクトを立ち上げ、日越両国の人材を育成されてきています。

また、現在も早稲田大学において英語及び日本語で講義を担当し、論文指導も行われています。先生のゼミナールでは、日本人学生のみならず、ベトナムをはじめとするアジア太平洋諸国の留学生等が数多く学んでいます。また、ベトナムの共産党幹部候補や若手行政官が毎年日本の大学や研究機関で研修を受けていますが、その講義に積極的に参加しています。

日越関係について一言触れます。現在、ベトナムは目覚ましい経済発展を遂げています。同時に、政治・経済両面で大きな歴史的転機を迎えています。行政改革、人事政策・給与改革の取り組みに加え、更なるインフラ整備、国有企業民営化、すそ野産業育成、労働生産性向上等を必要としています。

ベトナムの持続的発展は、多くの戦略的利益を共有する日本にとっても非常に重要であり、日本はベトナムとの連携を一層強化したいと考えています。

この重要な時期において、日越両国の懸け橋としての先生の役割は益々重要となっています。両国関係のさらなる発展と深化へ向け、先生のご尽力をお願い申し上げます。

最後に、トラン・ヴァン・トゥ先生と御家族の御健勝、日越関係のさらなる発展を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。(了)